

午後三時三十分

○額賀衆議院議長 御出席を今日はいただいて、ありがとうございます。

ちよっと前触れ的には御説明があったところでありまして、本日に今日は御出席をいただいてありがとうございます。

○河村たかし君 いやいや、わざわざ、これ身に余る光栄でございます。

○額賀衆議院議長 安定的な皇位継承につきましては、国会の附帯決議を受けてまして、令和四年一月に、当時の岸田総理から政府における検討結果の報告を受けました。その後、昨年五月から各党各会派間の議論を復活させまして、全体会議を二回開催した後、各党各会派から個別に意見聴取を行ってきたところであります。そして、昨年九月には、衆参正副議長として全体の中間報告をさせていただきました。

今般、本件についての議論を再開をしようと考えているわけですが、日本保守党においては、昨年の総選挙で議席を得られましたために、まだ御意見を伺っておりません。ついては、全体会議を再開する前に個別の御意見聴取をさせていただければということで、今日は時間を取っていただいたわけであります。ありがとうございます。

この意見聴取については、議事録を作成しております。内容が衆参のホームページで公開をすることになっておりますので、御確認をいただいて、そういう段取りをさせてもらいたい、こう思っております。

○河村たかし君 慎重にしゃべれという。

○額賀衆議院議長 いやいや、それは、発言、もう自由でございます。

○玄葉衆議院副議長 でも、確認はできるから、確認した上で公表します。

○河村たかし君 だから、文章にするときは一応チェックをします。

○玄葉衆議院副議長 公表する前に確認してもらいます。

○河村たかし君 公表する前に、これでいいかと、失礼はねえかねと。はい、承知しました。

○額賀衆議院議長 温情のある玄葉副議長でございます。

では、御意見を述べていただければいいと思いますので、どうぞ。

○河村たかし君 それでは、今日は、本当にこんな、入ってきてびっくりしましたけど、物すごい立派な方がおそろいになって、また、正副議長にヒアリングいただくということは身に余る光栄でございます。ありがとうございます。

まず、僕は、僕はと言ったらあれだけど、うちは、さっき言った話がありますように、ずっと江戸時代から勤王の家でございます。余りいなか、こういう話は。

○額賀衆議院議長 それでは、河村先生、議論がこう、余り時間はそんなに、一時間もやるわけじゃないので、端的に、分かりやすいように、私から大体今まで各党にもこういう質問をしてきた経緯がありますので、そういうことでよろしいでしょうか。

○河村たかし君 はい、それでオーケーです。

○額賀衆議院議長 一つは、政府の有識者会議において、議論の前提として、悠仁親王殿下までの皇位継承の流れはゆるがせにしないということと、合意をしておりますので、その前提で話を進めるということについては、先生のところでは、これはお認めいただいているということではないでしょうか。

○河村たかし君 最近の、愛子様が非常にフレンドリーで、非常に人気もありますし、そういうところからすると、人間的な若干のそういう気持ちはありますけど、まあ過去の二千六百年というといかがだけれども、日本の歴史を踏まえまして、男系でやっていくということについては私どもも賛成でございます。

○額賀衆議院議長 これまでの議論の前提として、そういう皇位継承の流れが前提となっておるので、それは分かりましたということでもよろしいですね。

○河村たかし君 オーケーです。

○額賀衆議院議長 もう一つは、皇族数が減少している中で、女性皇族が婚姻後も身分を保持しているということについては、各党各会派とも大体合意をしております。したがって、御党においても、この点についてもどういう御意見か、伺わせていただければいいかと思っております。

○河村たかし君 私のところは、そうとも思いませんけど、将来ややこしくなる可能性があるというところ、ですから一旦お離れになった方がいいのではないかという意見が多いですけど、きちっと決めたわけはありません、この点については。その前の、まあこれから出てくるだろうけど、養

子縁組の方はこれは是非進めていただいと。

だから、男系の男子というものがやっぱり日本のこの歴史の中で、私も、継体天皇から始まって南北朝までずっといろいろありますけど、全員の方と話をしたわけではないものですから、しかし、こういう男系の男子というのをこうやってずっと引き継いでいくということが、これがやっぱりずつとやってきたということを信じてやっていくことになりまして、これも日本の国にとって非常に世界的に貴重な財産ではないかというふうに考えることがいいんじゃないかと。その財産はずつと守り、世界中で日本だけなんでしょう、こういうことになる、ということでございます。

○額賀衆議院議長 歴史ですからね。

○河村たかし君 歴史ですからね。こういう伝統、名古屋の天守閣の木造化もそうですけど、是非やっぱり本物を大事にしていこうと、日本のね、そういう趣旨でございます。

○額賀衆議院議長 先ほど我々の、おっしゃったように、質問にも出たように、女性皇族が婚姻後も皇族の身分を保持するということについては承知しましたということでもいいわけですよ。

○河村たかし君 女性がやめられると、皇族を離れられるということで、まだ決めておりませんけど、やっぱり離れられた方がええんでないかと言っておる人も多いですよ、うちは。

○玄葉衆議院副議長 婚姻したとき。

○河村たかし君 はい。

○玄葉衆議院副議長 それは決めてはいないと。

○河村たかし君 まだ決めてはいないけども、養

子縁組の方はやっぱり相当、十一宮家ですか、は、やっぱりなるべく早く決めていただいとお願いしたいということでございますけども。

○額賀衆議院議長 養子縁組は三番目の質問。

○河村たかし君 いやいや、その今の女性の方を……

○額賀衆議院議長 済みませんね、今それは答えていただいたのでいいんですが。

○河村たかし君 ちょっと消極的なことを言いますと、何となく雰囲気、場が、雰囲気が悪いもので……

○額賀衆議院議長 いやいや、そんなことない。

○玄葉衆議院副議長 私しゃべっても……

○額賀衆議院議長 いやいや、いいですよ。

○玄葉衆議院副議長 いや、婚姻後も皇族として身分を保持するというのは、ほかの党もほとんど全て賛意を示しているので、多分議長がこだわられておっしゃっている。

○河村たかし君 まだきちんと決めて、三人しかおりませんが、余り少数政党、少数政党と言われると、少数民族みたいで感じ悪いんですけどね、これ。

○玄葉衆議院副議長 これ、三人で議論されるということなのか、もつと言うと、党全体として議論しておられるのか、それはどんな感じなんですか。

○河村たかし君 まあ取りあえず、三人といっても、島田さんが非常にこだわりますので、島田さんの意見なんかは養子縁組のところをきちつと言ってくれと。あとはまだ一応これからだ

いうことで。

有本、百田さんってここにいますんで、まあ百田さんと余りしゃべっておらぬけど、有本さんは女性の方も一応皇族から離れるとした方が、まあ我々も物すごく細かくはちょっと勉強しておりますけど、紛らわしいことを避けられるといったようなことは言っておられたけどね。

○額賀衆議院議長 これ、質問三つあったんですが、養子縁組は三つ目で話することになっていたんですが、これはこれで回答いただいたものとして、三つ目は終わりです。

二問目は、その皇族数というのが減少している中で、女性皇族が婚姻後も皇族の身分を保持していることで、皇室関係の制度的にも、それからいろんなサービスをしていくためにも、女性皇族として維持されていくことが、皇室制度を守っていく上では女性皇族を継続させていただいた方がいいんじゃないかということについて質問しているわけですよ。

○河村たかし君 まあ数ということをよく言われます、養子縁組でもそういう説あるんだけど。やっぱり日本の、この無形文化財か有形文化財か分からぬけど、ずっと何千年も続いてきた男系の男子が引き継いでいくという価値観を大事にしようじゃないかというのが強いんですね。

○玄葉衆議院副議長 結局、今議長がおっしゃったのは、悠仁様の頃、下手すると、皇族方は、誰もサポートしてくれるような皇族方がいなくなる可能性も、将来ね、将来においてですよ、あるかもしれない、そういう状況が本当にいいのかと多

分聞きたくっておっしゃっている。

○額賀衆議院議長 だから、皇室を支えていくために、皇族数というのが少なくなれば仕事はどうしたって減っていきますよね。だから、そういうところを少なくとも、日本の皇室制度を継続的に維持をしていくことが日本の象徴であるとすれば、しっかりとそれは支えていくように我々も考えていかなければならないという考え方なんです。そこで、みんな結婚なさったら民間人になると、支えていく人がいなくなつては困るんじゃないかという。

○河村たかし君 この間、そういうこともあつたけど。

イギリス王室なんかは、あれはどういうふうだったですかね。結婚すると、何だ、エリザベスさんの妹か、アン王女か、誰だっけ。

○額賀衆議院議長 いやいや、女性皇族が減っていくんですよ。結婚して民間人になってしまえば皇族数の数が減ってしまつて、それは悠仁様の時代に、じゃ、支えていく人がどうするのと、結婚したら民間人になつちゃうわけですから。そういうことの危惧なんですよ。

だから、それはまだ見ていない世界のことを言うんだけど、我々は、皇族制度をしっかりとして、日本の象徴ですから、私たちが死んだ後についても、私の場合はですよ、その後についてもやっぱりきちつとしておくことが政治家の務めだから、河村先生の御党にも是非。各党はほぼみんなオーケーしているわけですよ。

○河村たかし君 そうですか。

○玄葉衆議院副議長 それはほぼオーケーなんです。

○河村たかし君 オーケーなんですか。

○玄葉衆議院副議長 今申し上げたのは、結局、あくまで婚姻後も皇族という身分を保持するということについてですよ。その後の話は別ですよ。おっしゃるとおり、その後の話が複雑になるという考え方を持つ人もいますけれども、それは制度設計の仕方だから。だから、それは皇族としてもし御意思があつて活動してくださるということであれば、それは認めた方がいいんじゃないかというのがほぼ全ての政党の考え方なんですけれども。

○河村たかし君 それは、先ほど言いましたように、ただ、これ余り党としては、党としてはというの、そう好きじゃないけど、これ。議員は党の一兵卒とはちよつと違いますので、これは。

ですけど、まあ一応、今言いましたように、今のところはその養子縁組のところまではきちつと党として主張していこうと。あと、女性の方としては、僕がヒアリングするところでは、まあええでないかという人もおるけれども、しかし、ややこしくなるということ……

○玄葉衆議院副議長 なる可能性があると。

○河村たかし君 可能性がある。だから、男系の男子を守っていくことが世界に冠たる日本の国というところで貴重な財産だと。

○額賀衆議院議長 先生、男系の男子を守っていくことと、この皇族数が減少している中で、女性皇族が婚姻後も、その皇族の身分を保持するということは、むしろ皇室制度を支えていくために

……

○河村たかし君 支えていくと、結婚した人が……

○額賀衆議院議長 後めちゃんとサービスができるようにしてくださいねという補完的な意味を持つて、我々はどういう……

○玄葉衆議院副議長 要は、女性天皇とか女系天皇はまた別の議論としてありますということを多分議長は今おっしゃりたかつたということだと思います。

○河村たかし君 結婚した人、おとつあんは、いや、御主人は、陛下になることはできぬということが……

○玄葉衆議院副議長 それはあり得ないですね。

○河村たかし君 ということがあり得ないならあり得ない。だけど、若干疑義を持つ人も出てくるであろうということにはなるんでしょう。ならぬのかな。

○玄葉衆議院副議長 その女性皇族の結婚した相手が陛下になるということは現行制度ではないですね。

○河村たかし君 ないですか。

○額賀衆議院議長 ないですね。皇位継承権を有する皇族であればまた違つてきますけど、民間の人ですから。それは先生がおっしゃった男系と矛盾しますから。

○玄葉衆議院副議長 男系男子だったら、よろしいわけですか。

○河村たかし君 それはそうだ。じゃなくて、民間の人ですよ。それはないと。

○玄葉衆議院副議長 それは 아닙니다。
○河村たかし君 なるほど。

一遍そこはちょっと、今のところはもうちょっと考えさせていただいてと、しかるべく。

○額賀衆議院議長 だから、分かりました。それでいいですよ。

私どもは個人的な意見を聞いているのではないでね。

○河村たかし君 そうでしょう。

○額賀衆議院議長 党としてしっかりとこれをペンディングにして、後で党議で答えていただけますか。

○河村たかし君 はい、分かりました。

○額賀衆議院議長 一番と三番目は、例えば悠仁様までは分かりましたと、で、養子縁組もオーケーですということですので、問二、今二つ目の皇族の身分について、女性皇族の身分についてですね、ちよつと相談して返事しますということでしょうか。

○河村たかし君 はい、そういうことで結構でございます。

○玄葉衆議院副議長 かなり思いを持った何か：

○額賀衆議院議長 いやいや、これは、河村先生の個人的な意見を私聞いているんじゃないんでね。
○河村たかし君 どうもそうらしいんでね、これは。恐れ多くも有り難いチャンスをいただきましたまして、有り難いことでございます。

○額賀衆議院議長 いや、やっぱり個人的な意見だと、それは党として持ってきてくださいと言わ

ないと、なかなかね。立法院の総意をまとめると言われているものだから。

○玄葉衆議院副議長 議長がやっぱり日本保守党からもきちつとヒアリングすべきだと。

○河村たかし君 それはありがとうございます。

○額賀衆議院議長 いや、そうですね。立法院の総意ですから。

○河村たかし君 いやいや、一応ね、もっと時間くれと盛んに言っていますけどね。

○玄葉衆議院副議長 そうですか。

○河村たかし君 いや、ここじゃないですよ。委員会の審議でね。

○玄葉衆議院副議長 ああ、そういう意味ですね。

○河村たかし君 一応、国政政党や、ああいう仕組みがええかとかは別としまして……

○玄葉衆議院副議長 いや、確かに少数会派の発言時間の確保というのは課題ですよ。

○河村たかし君 そうだよ。

○玄葉衆議院副議長 委員会では三人だからほとんどもう時間ももらえないという話ですね。

○額賀衆議院議長 そうか、そういう意味ね。

○玄葉衆議院副議長 それは課題ですよ、確かに。国会改革の対象ですよ。

○河村たかし君 でも、野党の、どういうんですか、あれは。国対、会議には一応呼んでいただいて、そこで不肖河村さんにも、名指しで御意見どうぞと言われますので、笠様から。それは有り難いことです。

○玄葉衆議院副議長 やっぱり経験のなせる業です。

○額賀衆議院議長 僕らが当選した頃は自民党が圧倒的に強い頃でしたけれど、私は田中派で、竹下派でしたが、田中さん、角さんも、次の派閥を背負った竹下さんも、やっぱり少数会派については極めて、何というかな、重く意見を聞くという姿勢は強くありましたよ。

○玄葉衆議院副議長 何か昔の竹下派は、国会は野党のためにあるとかされてましたよね。

○河村たかし君 ああ、そんなことを言っておったんですか。

○額賀衆議院議長 いやいや、国対というのはみんなそうですね、少数派の尊重ですから。

○玄葉衆議院副議長 全然、質問時間ももらえないんですか。そんなことないでしょう。

○河村たかし君 いやいや、ありますよ。だから何か、あれで割ると、二分とか三分とか。

○玄葉衆議院副議長 予算委員会とか。

○河村たかし君 いや、予算じゃなくてね。ほとんどないんだけど、それはちよつとえらいだろうと言って。じゃ、五分ぐらいって言いながら七、

八分はしゃべっていますけど、いろいろね。

○額賀衆議院議長 昔は国対でちゃんと、よく配慮したと思うけどね。

○河村たかし君 まあ、少数政党、少数政党と言うと余り、少数民族みたいで、何だかね。

○額賀衆議院議長 いや、少数政党を大事にするという意味で言っているんじゃないの。

○河村たかし君 それは有り難いことでございます。

○額賀衆議院議長 これからもよろしく。

○河村たかし君 はい、よろしく。

○額賀衆議院議長 今日はありがとうございます。ごまじました。

○河村たかし君 いや、済みません、本当に。

○額賀衆議院議長 これは、二番目のことについては後で返事くれるんですか。

○玄葉衆議院副議長 確認してもらって、今日の議事録の、まとめたものを、それを確認してもらうときに。

○額賀衆議院議長 いやいや、これ、明確な返事ないんだよ、今は。二番の点に。

○河村たかし君 どうしますか。いつまでとか。

○額賀衆議院議長 それはまとめてちゃんと……

○玄葉衆議院副議長 次のヒアリングのときで、今度の代表者会議までで……

○額賀衆議院議長 いや、だから、党内で、個人的な意見とか、まとまっていけないのでは、党としてちゃんとまとめていただけるといいと、で、意見がないということであればなくても結構ですから、それも意見ですから。

○河村たかし君 それはいつ頃までですか。

○玄葉衆議院副議長 だから、一応はこれでいいんじゃないですか。次、代表者会議あるでしょう。

○額賀衆議院議長 まあいいんだけど、だから、回答をちゃんと作っておいてね、党として。

○河村たかし君 一応こっちもちよっといつ頃までにと言っていた方がいい方。

○額賀衆議院議長 ノーコメントならノーコメントでもいいですよ、それは。

○河村たかし君 ノーコメントはちよっと情けな

いんでね。情けないでしょう、やつぱり。

○額賀衆議院議長 いや、だから、私は河村先生の個人的な意見を聞いているんじゃないんで、党としてちゃんとコメント、あるものはコメントいただきたい。自分の、ここはノーコメントだというのであればノーコメントでも結構ですからそうしてくださいと。私は党としての意見を聞いているんです。

○河村たかし君 はいはい、分かりました。じゃ、責任ある返答せなね。いつ。

○築山衆議院事務総長 全体会議が三十一日にありますので、三十日までにお返事をいただければと思います。

○河村たかし君 三十日までね、はいはい。

○玄葉衆議院副議長 それで配るから、紙に入れるので。党としての考え方というのを。

○河村たかし君 承知いたしました。じゃ、三十日までに御連絡は事務総長さんに。

○玄葉衆議院副議長 どうせ公表する内容を確認してもらい必要もあるから。

○河村たかし君 はい。じゃ、事務総長さんに三十日までにお返事をさせていただくということをお願いします。

○額賀衆議院議長 まあ、河村先生、今後もざっくばらんによろしくお願いします。

○河村たかし君 七十六ですよ、もう本当に。

○額賀衆議院議長 私、八十一ですから。

○河村たかし君 まだまだだね、これは。本当に。八十から結構やつぱり年食う言うな、みんな。

○額賀衆議院議長 そう言わないで。

○河村たかし君 本当に。八十まではまだ……

○玄葉衆議院副議長 七十六にしては随分若いです。ね。

○河村たかし君 やけくそでやつとるもんで。やけくそで。

○玄葉衆議院副議長 選挙も強いですし。

○河村たかし君 いやいやいや。

○額賀衆議院議長 さっきからはちよっと個人的な意見ですから。どうぞよろしく。

○河村たかし君 承知しました。どうもありがとうございます。

午後三時五十一分